

弘前市女性活躍推進異業種交流会に参画しています

弘前大学は、平成28年度から、弘前市女性活躍推進異業種交流会「hirosaki smart project」に参画しています。hirosaki smart projectは、弘前市の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、弘前市と損保ジャパン日本興亜株式会社を中心となり、弘前市内の女性活躍推進を図ることを目的とするものです。平成30年度は、弘前大学を含めて、弘前市内に拠点を置く企業・団体など15機関が参画し、7月18日に弘前駅前公共施設(ヒロロスクエア)で第1回交流会が開催され、人文社会科学部、教務課、国際連携本部、人事課の4名の事務系女性職員が参加しました。この4名は、年度内に開催される交流会に引き続いて参加する予定です。

今後のイベント情報

北東北女性研究者 研究・交流フェア2018

北東北地域における女性研究者の研究活動の活性化、女性研究者間の企業等の相互交流、ネットワーク活動の活性化を図ることを目的とした企画です。ぜひご参加ください。

- ◇日時：9月19日(水)10:30～16:00
- ◇会場：いわて県民情報交流センター7階 小田島組☆ほ～る
- ◇主催：岩手大学、北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議
- ◇主な内容：共同研究発表、ランチタイム交流会、研究リーダー力向上支援セミナー、ポスターセッション



北東北国立3大学連携推進会議連携協議会 男女共同参画シンポジウム 「大学のダイバーシティ推進と人材育成—産業界からの期待」

弘前大学、秋田大学、岩手大学は、平成22年から持ち回りで男女共同参画シンポジウムを開催してきました。平成30年は弘前大学が主催校となり、大学におけるダイバーシティ推進に係る最近の政策や議論の動向等を踏まえ、「大学のダイバーシティ推進と人材育成—産業界からの期待」をテーマに開催します。ぜひご参加ください。

- ◇日時：9月21日(金)14:00～16:00
- ◇会場：弘前大学 コラボ弘大8階 八甲田ホール
- ◇主催：弘前大学
- ◇主な内容：基調講演／講師：相樂希美氏(東北経済産業局長)
取組報告／報告者：3大学の男女共同参画推進室長等
パネルディスカッション／登壇者：3大学の担当事者等

さんかくつうしん

Newsletter Vol.19



着任のごあいさつ

4月1日付けで、新たな担当理事と男女共同参画推進室長が着任しました。



理事(社会連携担当)
石川 隆洋

はじめまして。本年4月、弘前大学理事(社会連携担当)を拝命した石川です。本学を卒業した者として、本学運営に携われることに感謝しつつ、その重責に身の引き締まる思いです。特に、男女共同参画については、担当理事として、男女が性別に関係なく個性と能力を十分に発揮できる社会の実現に努めて参ります。ご協力方よろしく申し上げます。



男女共同参画推進室長
安川あけみ

平成30年度より、男女共同参画推進室長の任に就きました。性別等にかかわらず誰もが能力に応じて公平に職を得られ、活躍でき、多様性を認め合う弘前大学であるために、微力ながらご協力したいと考えております。皆さまのこれまでのご理解とご協力に感謝申し上げますと共に、今後のさらなるご指導とご支援を心よりお願い申し上げます。

男女共同参画トップセミナーを開催しました

6月4日、弘前大学創立50周年記念会館において平成30年度男女共同参画トップセミナーを開催しました。このセミナーは、岩手大学を代表機関とする文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)「ダイバーシティ実現で北東北の未来を先導」の一環として、本学や連携機関の管理職を主な対象に、女性教員の採用・昇任等をはじめとするダイバーシティ研究環境推進に関する意識啓発を図る目的から実施したものです。

講師には、日本大学薬学部薬学研究所上席研究員の大坪久子先生をお迎えし、「優秀な人材確保のために—ダイバーシティの観点から」と題して、米国科学財団における女性研究者支援事業の流れや、無意識のバイアスの発見、無意識のバイアスの現れ方の事例・現れやすい状況、多様な人材を確保するための人事選考のあり方・好事例等についてご講演をいただきました。

当日は本学長や理事、補助事業連携機関やおもろダイバーシティ研究環境推進ネットワーク関係者を含む71名の参加があり、参加者アンケートでは回答者の9割以上から、本セミナーについて「大変参考になった」や「参考になった」と評価されました。また、「無意識のバイアスについてよく理解できた」、「今後意識したい」等の感想も寄せられました。

セミナーの動画と質問に対する大坪先生からの回答は、男女共同参画推進室ウェブサイトにて学内限定で公開しています。



開会の挨拶を行う佐藤敬学長



講師の大坪久子先生。本学を含む北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議作成の「研究者採用ガイド」を、無意識のバイアス対策の好事例の1つとしてご紹介いただきました。

あおりダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議を開催しました

6月4日、弘前大学創立50周年記念会館において「あおりダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議」を開催しました。あおりダイバーシティ研究環境推進ネットワークは、連携して地域における女性研究者の研究活動支援や育成・裾野拡大を推進することを目的として、昨年8月に設立されました。女性研究者の研究活動支援や育成・裾野拡大や、課題共有、課題解決に向けた情報・意見交換、ネットワーク構成機関等が実施するセミナー等にかかる情報提供や相互参加等を行っています。

会議には、11機関16名の出席があり、平成29年度の取組報告と平成30年度の取組の審議が行われました。会議の最後には、補助事業の参加機関として位置付けられている本ネットワークに対して、事業代表機関である岩手大学の菅原悦子理事から助言をいただきました。



ネットワーク会議の様子



助言をくださった岩手大学の菅原悦子理事

平成30年度共同研究支援事業採択課題が決定しました

7月、「ダイバーシティ実現で北東北の未来を先導」の取組の一環として実施する共同研究支援事業の平成30年度の採択課題が決定しました。共同研究支援事業は、弘前大学と岩手大学、八戸工業高等専門学校、一関工業高等専門学校、農研機構東北農業研究センター、株式会社ミクニに所属する女性研究者による共同研究を支援することにより、これらの機関や、ひいては北東北における女性研究者の研究力・リーダー力・マネジメント力の向上を図り、上位職登用の促進につなげるとともに、当該領域・分野の研究の深化に寄与することを目的としたものです。

今年度は、24件の課題が採択されました。うち、弘前大学の女性研究者を代表とする申請は6件で、次のとおりです。

研究課題	研究代表者	共同研究者
女性雑誌に見る女性のライフコースの再生産(継続)	出 佳奈子(教育学部)	戸田山 みどり(八戸工業高等専門学校) 李 秀眞(弘前大学)
カシスに含まれる新規機能性成分の探索(継続)	柿崎 育子(医学研究科)	佐藤 久美子(八戸工業高等専門学校) 川口 恵未(八戸工業高等専門学校) 山本 歩(八戸工業高等専門学校) 中川 裕子(一関工業高等専門学校) 戸谷 一英(一関工業高等専門学校) 照井 教文(一関工業高等専門学校) 島田 透(弘前大学)
血管内皮細胞を用いた動脈硬化抑制機能を有するフィトケミカルの探索(継続)	堀江 香代(保健学研究科)	山本 歩(八戸工業高等専門学校) 川口 恵未(八戸工業高等専門学校) 七島 直樹(弘前大学) 前多 隼人(弘前大学) 富澤 登志子(弘前大学)
RNAフェージQβ由来RNA複製酵素の進化分子工学手法による改良(新規)	柏木 明子(農学生命科学部)	宮崎 珠子(岩手大学)
植物における細胞分裂軸の制御機構(継続)	笹部 美知子(農学生命科学部)	西向 めぐみ(岩手大学) 上村 松生(岩手大学)
線虫Caenorhabditis elegansをモデルとした機能性食品素材のスクリーニング法の開発(新規)	山元 涼子(農学生命科学部)	西向 めぐみ(岩手大学) 牛田 千里(弘前大学)

女子小学生対象理科実験教室を後援しました

7月21日、青森市男女共同参画プラザ(カダール)において、カダール主催の女子小学生を対象とする理科実験教室「実験ガールズ2018」が開催され、弘前大学男女共同参画推進室が後援しました。この企画は、理科実験の楽しさを経験するきっかけとなる場を提供することで、理系女子の裾野拡大を図ることを目的としたもので、青森市内の女子小学生37名の参加がありました。

本学教育学部の女子学生3名が講師として、「種のしくみをまねしてみよう」、「くだもので電気をおこそう」、「カミナリのひみつ」などの実験を担当したほか、会場には本学の女性研究者に関するポスターも展示され、参加した女子小学生のほか、保護者にもご覧いただきました。



女子学生による理系女子進路相談会を開催しました



8月8日、弘前大学総合教育棟1階ロビー・ホールにおいて、「女子学生による理系女子のための進路相談会」を開催しました。この企画は、本学の教育学部、理工学部、農学生命科学部の女子学生が相談員となり、オープンキャンパスのため来学した女子高校生の進路などに関する相談に応じるもので、51名が来場しました。

16名の相談員が、大学での学習内容やキャンパスライフなどについての相談に熱心に対応し、来場したすべての女子高校生から「参考になった」と好評をいただきました。参加者からは、「理系学部のことについて知ることができてよかった」、「学校のことから学科のことまで知ることができ、とてもこの学校に入りたくなった」などの感想が寄せられました。

子育て・介護中の研究者を支援しています

弘前大学では、平成24年度から、子育てや介護により研究活動の維持継続が困難な研究者(性別・分野を問わない)に対して、研究支援員を配置し、研究活動の支援を行っています。平成30年度は、8名の研究者(うち男性1名)を支援中です。

支援は、原則として、前年度に提出された申請に基づいて行っていますが、年度の途中で子育てや介護により研究活動の維持継続が困難な状況になった場合には、申請を付けます。男女共同参画推進室まで、お気軽にご相談ください。

なお、平成31年度の支援については、本年度後期に申請に係る案内を行う予定です。

託児利用料を補助しています

弘前大学では、地域の病児・病後児保育施設を利用した際や、休日勤務時に託児サービスを利用した際、学会参加時に託児サービスを利用した際の利用料の補助を行っています。平成29年度は、病児・病後児保育56件、休日勤務時1件、学会参加時2件の託児利用料を補助しました。

支援は、随時、申請に基づいて行っています。実施要項や申請書など、詳しくは、男女共同参画推進室のホームページをご覧ください。

